

光葉ワーキングクラブメールマガジン



＜2021年3月号＞

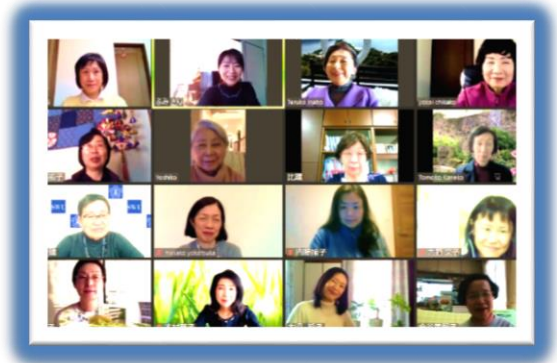
165号 2021.03.01 配信

大学のある東京は、桜が咲き始めた箇所もあります。しかしながら、新型コロナウイルスにより、令和3年1月7日に発せられた緊急事態宣言の真っ最中でもあります。10都府県のうち6府県は3月1日で解除されましたが、1都3県は3月7日まで、最後まで気を引き締めて、自分自身の健康のみならず、周囲の方々の健康を守り、新たな年度を迎えたいものです。

■同窓会だより

◆光葉同窓会ワーキングネットワーク委員会

日時：2月20日（土）14:00～（オンライン ZOOM）
今年度、最初で最後の委員会を ZOOM で開催。久しぶりの委員会で比護和子会長から励ましの言葉、金子朝子副理事長から大学の近況をお聞きし、また深夜のニューヨークから参加の同窓生からは新鮮な刺激をいただいた。互いの近況を語り 2021 年度に向け活動を再開しようと次回の開催に繋がった。



◆卒業生著作紹介 天野寛子さん（昭和女子大学名誉教授、フリー刺繍画家）
「東日本大震災 針と糸で繋ぐこころの風景 繋ぐ③」 3月1日刊行（ドメス出版）

■学園だより

◆国際女性デーに向けて - 「女性とスポーツ」シンポジウム

女性とスポーツの関係を基本に立ち返って考え、ジェンダー平等、相互理解を日本に定着させるために何が必要か、スポーツと長年取り組む専門家をゲストに招き、ともに考えます。

日時：2021年3月6日（土）14時～16時（申込締切：3月4日）

開催：Zoom ウェビナーで配信・無料・定員 500 人（先着）

申込先→ <https://forms.gle/4KU8qtCkSj6ACicbA>

◆キャリア支援センター 「2021年度春期 社会人メンター募集のお知らせ」

＜社会人メンターネットワークとは＞

社会の第一線で活躍中の方、過去に職業経験をお持ちで現在は一時離職中の方など、幅広い年代、職種、ライフスタイルの女性に、昭和女子大学の「社会人メンター」としてご登録いただき、学生に対してご自身の職業経験、生活経験からのアドバイスをお願いするシステムです。

社会人メンターネットワークホームページ <https://mentor.swu.ac.jp/>

■「2021年度春期 社会人メンター募集のお知らせ」

【募集期間】3月8日（月）～3月31日（水）

【募集要項】http://mentor.swu.ac.jp/files/2021/02/boshu_2021spring.pdf

【応募方法】<http://mentor.swu.ac.jp/entry>

■ 広げよう光の葉

石井 文佳 さん

1984 年 家政科卒 (茨城県支部)

「コロナ禍と宿」

昭和 59 年に昭和女子大学短期大学部の家政学科を卒業してから 37 年もの年月が経ちました。現在は実家の家業の宿を継いでいます。平成 23 年には宿の全館建替えと東日本大震災が重なり、廃業を覚悟するほど資金繰りに苦しみましたが、様々な方々のご温情やご支援により宿を今日まで続けることが出来ました。そして現在は大震災とは異なりますが、じわじわと迫る危機の最中で過去に学んだ逆境の中の経営を肝に銘じながら日々格闘しています。

新型コロナウイルス感染症が上陸した昨春。緊急事態宣言が発令され、私と主人が経営する茨城県沿岸の片田舎にある小さな宿も 2 ヶ月の休館を決断しました。東京オリンピックでインバウンドは花開き、日本は独自の文化を誇るアジアの観光立国として目覚め、世界に友人をつくる、語学の学び直しにチャレンジする、こんな明日があるはずでした。オセロゲームのように世界が次々と暗転し、桜吹雪が色褪せて白昼夢のようでした。

春は 2 ヶ月が無収入になりました。出勤がなくなることでスタッフが給与と感染の不安を増大させないように休館中もコミュニケーションを図りました。その一方で主人と一緒に金融機関や顧問税理士や社労士に相談し、返済を延期していただき、出来る限りの資金調達も行い、初めて雇用調整助成金の申請にも取り組みました。

しかしながらこれも宿の生命維持の応急手当に過ぎず、収束が見込めないコロナ禍の中で生き抜くことが出来る宿づくりに舵を切るしか道はありませんでした。宿から感染者を出さないこと。スタッフがストレスを強く感じる危険な仕事はさせないこと。これをスタッフと共に何度も議論して、スタッフが安心して仕事出来る「ウィズコロナの時代の新しい保養のかたち」という運営マニュアルをまとめました。接客はお客様との会話を最小限に抑えて味気無く、複雑な気持ちになりますし、安全を優先で収益性が良くないので今後改良が必要であったり、課題は山積していますが、新しい宿のかたちをスタッフもお客様も受け入れて下さり、生き抜く手がかりを感じる事が出来ました。

夏から始まりました Go To トラベルは大反響で年末まで満室になりました。多くの観光業が救われたと思います。厳格な割引の仕組みから事務作業の負担は大きいですが、徹底された感染対策ルールは心強く、スタッフも安心して業務が出来ていたように思います。感染を地方に広げているのではないかと批判を受けていましたが、私の町も観光地ですが Go To トラベルの実施期間中に陽性者はありませんでした。

年末には感染者が過去最大を連日更新。2 回目の緊急事態宣言が発令され、Go To トラベルも停止に。膨大なキャンセルが発生しました。感染対策はしっかりしているつもりですが、政府が不要不急の外出の自粛を要請しているのに宿が旅を誘うことに矛盾を感じ、宿をひらく意欲が無くなってしまいました。今は感染者数を抑えないと、経済活動の再開もままなりません。我慢できる限りは我慢して宿を休みます。

ただ、これも何度も出来ることなく、いつか矛盾のある行動を選択する日が来るのかもしれませんが。何が正しいことなのか自問自答する日々です。

【End】